

Monthly Report

Vol.162 / 2019.OCT

漕艇部がアジアボート選手権で銅メダル獲得



集合写真

10月23日～27日に韓国・忠州で開催された「2019アジアボート選手権」において、日本代表として出場した漕艇部メンバーが軽量級男子舵手なしフォア（LM4-）で銅メダルを獲得しました。

また今大会には本学卒業生も出場し、活躍しました。

○軽量級男子舵手なしフォア（LM4-）メンバー

杉浦 旭さん（体育学科 3年）
 信夫 涼さん（体育学科 3年）
 松浦大河さん（体育学科 4年）
 桑村 潤さん（体育学科 3年）

○アシスタントコーチ

猪股優人さん（健康福祉学科 4年）

○本学卒業生の活躍

三浦友之さん（NTT東日本所属）
 ダブルスカル 8位
 小野紘輝さん、中島希世紀さん（ともにチョープロ所属）
 舵手無しペア 5位

〈目次〉

・漕艇部がアジアボート選手権で銅メダル獲得	1
・朴澤泰治理事長・学事顧問が仙台キワニスクラブで講演「八村塁とNCAA」	2
・陸上競技部：日本選手権リレー男子4×400mリレーで銅メダル ・佐々木琢磨新助手が34年ぶりに日本ろう新記録を樹立 ・軟式野球部員が、家出入を無事保護	3
・軟式野球部：東日本軟式野球選手権大会東北地区予選で優勝 ・女子サッカー部：皇后杯東北大会で連覇達成 ・令和元年度 科研費研修会を開催	4
・2019プロ野球ドラフト会議で本学硬式野球部から2名が指名されました ・女子バスケットボール部：リーグ戦初優勝 3年連続17回目インカレ出場決定！	5
・健康福祉学科：介護ロボットセミナーを開催しました ・中山晴雄先生による頭部外傷セミナーを開催	6
・令和元年度 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算29回目）の実施報告	7 8
・2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会開催 ・ラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が明成高校で講演会を開催 ・河北新報社主催「防災ワークショップ」が開催されました	9
・「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました ・第43回新日美展 ホルペイン工業賞受賞	10
・芝草通信 NO. 7 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.19	11

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

朴澤泰治理事長・学事顧問が仙台キワニスクラブで講演「八村塁とNCAA」



講演の様子



10月10日（木）、仙台キワニスクラブの招きにより、朴澤泰治理事長・学事顧問は仙台国際ホテルにて「八村塁とNCAA」と題した講演を行い、約40名もの会員の方が熱心に耳を傾けました。

キワニスクラブは、全世界85ヶ国の主要都市に7400クラブ、約20万人の会員を有する奉仕団体で、ライオンズクラブ・ロータリークラブ同様、さまざまな慈善事業に力を入れています。

同クラブは活動の一環として、毎月2回講師を迎え講演会を開催しており、例会委員長で産経新聞東北総局長である廣瀬典孝氏じきじきの依頼により、講演会が実現の運びとなりました。

最初に、朴澤理事長・学事顧問は、人口減少のなかで新たに始まる教育の無償化など、大学を取り巻く環境は大変厳しい状況ではあるが、そのような時代ではあっても英知をもって次世代を担う人を育てる取組みを行っていきたくと抱負を述べました。次いで、今日は、米国の制度を参考にした日本の大学スポーツ界での新しい動向「UNIVAS」をテーマに、朴沢学園が経営する明成高校出身で、米国の大学スポーツ界(NCAA)で大活躍し、ドラフト1巡目9位でNBA入りし米国プロバスケット選手となった八村 塁を事例に、様々な動画で紹介することにより、スポーツ科学を専攻領域とする地方私学の取組みを紹介したい〜 と挨拶されました。

八村塁選手は、明成高校を卒業後、アメリカ西海岸・ワシントン州にあるバスケットボールの名門ゴンザガ大学に入学、類まれな技術と礼儀正しく謙虚な人柄が周囲の方々に愛され、めきめきと頭角をあらわし、今年6月、日本人として初めてNBAドラフトで指名されワシントン・ウィザーズに入団しました。

最初に、今では流ちょうな英語を駆使して、記者からの難かしい質問にもユーモアを交えて答え、来年開催される東京オリンピック男子バスケットボールの日本代表における最主力選手である八村選手も、高校時代は英語に苦労したことが動画で紹介されました。次いで、明成高校の男子バスケットボール部での人間性を陶冶する教育の事例として、2011年3月、東日本大震災で殆ど全ての場所が断水した際、明成高校バスケ・ラボにある屋外水道だけは通水があり、バスケ部の生徒たちが総出で給水作業を手伝い、地域の方からとても喜ばれる様子が示されました。さらに、八村選手の同期で、現在、日本の有力大学でバスケット選手として活躍している明成高校同級生たちが、「苦しい時に塁が支えてくれた」、「バスケの楽しさを塁が教えてくれた」と口々に感謝する動画が流れました。八村選手がドラフト指名された場面では、講演会場にいた方々から歓声があがるなど、まるでドラフトの現場に自分たちもいたかのような臨場感で、聴衆者は魅了されました。

朴澤理事長・学事顧問は、最後に、現在、日本で開催され、盛り上がりを見せるラグビー・ワールドカップの日本選手が多国籍で構成されるチームになっている様相に触れ、「これは、これからの日本では、どのスポーツに限らず外国籍選手で構成される時代へのターニングポイントとなるのではないか。島国日本に単一民族が暮らす時代から、日本国自体が他民族を受け入れる時代へと変化する兆しを感じる」と述べました。

聴講していた一人で（株）東芝の東北支社長・谷内聡氏は

「いまやニュース・新聞で引っ張りだこの八村塁選手が、苦労しながら明成高校時代に恩師や仲間たちに恵まれ、素晴らしい選手に成長されたことがよくわかる価値ある秘蔵映像の数々に引き込まれました。八村塁選手には来年のオリンピックでぜひ活躍してほしいです」と述べていらっしゃいました。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、明成高校および仙台大学は、優れた選手や指導者の育成にますます真摯に取り組んでいくことを伝える貴重な場となりました。

陸上競技部：日本選手権リレー男子4×400mリレーで銅メダル

10月27日（日）に北九州市立本城陸上競技場で開催された第103回日本陸上競技選手権リレーにおいて、男子4×400mリレーで銅メダルを獲得しました。出場した選手はもちろんのこと、控えメンバーも全員で一丸となって勝ち取ったメダルです。

今年度の全国規模の大会はこれで最後となりますが、来年度の日本選手権やインカレに向けて、厳しい冬期練習に励みます。

今後とも応援よろしくお祈りいたします。

【結果】

男子4×400mリレー 第3位 仙台大学 3:09.89
 1走 水戸 大了（運動栄養学科 3年）
 2走 遠藤 大河（体育学科 3年）
 3走 築場 丈（体育学科 3年）
 4走 松本 宏二郎（大学院スポーツ科学研究科 2年）



全員で記念写真

< 報告：陸上競技部 >

佐々木琢磨新助手が34年ぶりに日本ろう新記録を樹立

9月28日（土）仙台大学陸上競技場にて第6回仙台大学競技会が行われ、男子100mに出場した本学新助手の佐々木琢磨が、10秒62（+1.5M）で日本ろう新記録を樹立しました。これまでの日本記録は10秒68で34年ぶりの更新です。

○コメント

今回はランプなしの音のみでスタートしました。遅れても気にせずに自分のレースに集中することができました。また、耳が聞こえる選手達も揃う組で争いましたが、良いタイムが出せたので、今回の経験は、今後のレースにつながります。

デフリンピック大会記録が10秒61なので国際大会でも良いタイムが出せるように今後も練習に励んでいきたいと思ひます。

引き続き、応援のほどよろしくお祈りいたします。



佐々木琢磨新助手

< お手柄でしょう > 軟式野球部員が、家出人を無事保護



去る9月14日（土）、軟式野球部2年の吉永 太一さんはアルバイト終了後、自宅へ帰る途中に見知らぬ中学生から不意に声を掛けられましたが、話を訊くと家出中であることがわかったため、無事自宅まで送り届けました。中学生の両親は、警察に捜索願を提出し、正に捜索中でした。現在、本学では、学生による「ながら見守り活動」を実施中で、その模範的な行為を讃えて、10月30日（水）、大河原警察署から感謝状を贈呈されるとともに、遠藤学長からも表彰状と副賞及びお誉めの言葉を頂きました。

< 報告：学生生活室 >

軟式野球部：東日本軟式野球選手権大会東北地区予選で優勝

9月30日（月）～10月2日（水）まで仙台市民球場などで開催された第40回東日本大学軟式野球選手権大会東北地区予選、本学は決勝戦で東北学院大学を3対2で下し、予選1位で全国大会への出場を決めました。

9月30日（月）の1回戦では東北大学を14対0で6回コールド勝ちした後、10月1日（火）の2回戦、東北福祉大学を2対1の接戦で下し準決勝に進みました。

10月2日（水）準決勝では、宮城教育大学を9対5で下して決勝進出を決めました。同日から行われた東北学院大学との決勝戦、1対1の同点で迎えた7回裏、1アウト1塁、3塁からヒットエンドランで1点勝ち越し、さらにスクイズで1点を加え3対1とします。そして9回表、東北学院は連打で1点差まで追いますが、最後のバッターをセンターフライに打ち取り試合終了。東北地区予選で見事優勝を果たしました。

本学は準優勝の東北学院大学とともに、11月1日（金）～6日（水）まで大和市の大和スタジアムなど神奈川県内8会場で開かれる全国大会に出場します。

<報告：軟式野球部>



記念写真

女子サッカー部：皇后杯東北大会で連覇達成

10月5日（土）・6日（日）に行われた、河北新報旗争奪第38回東北女子サッカー選手権で、2年連続4度目の優勝を果たし、東北第一代表として11月2日から行われる皇后杯全日本女子選手権に出場します。

○結果

10月5日（土）準決勝

対 聖和学園高校 1-0 勝ち

10月6日（日）決勝戦

対 常盤木学園高校 1-1 PK戦5-3 勝ち



記念写真

前半33分に菅野 桃香選手（体育学科4年）が頭で押し込み先制。後半に追いつかれていましたが、PK戦で5-3と激戦を制しました。

今大会を通して厳しい試合が続きましたが選手達が試合の中で、相手をよく分析して、冷静に戦うことができました。

また今回の課題をしっかりと分析し、さらに精進いたします。

引き続き、応援の程よろしくお願い致します。

<報告：女子サッカー部>

令和元年度 科研費研修会を開催

10月1日（火）18：00～LC棟1階において「令和元年度 科研費研修会」を開催しました。今年度は外部講師として東北大学大学院医工学研究科の永富良一教授をお招きし、「知っておきたい研究計画作成のポイント」をテーマに、ご自身のこれまでの科研費獲得の経験を踏まえた貴重なお話を伺いました。研修後の質疑応答では、活発な意見交換がなされ一つ一つ丁寧に応えていただきました。令和2年度の科学研究費補助金獲得に向けたいへん有意義な研修会となりました。

<報告 学術会事務局>



硬式野球部：2019プロ野球ドラフト会議で本学硬式野球部から2名が指名されました

10月17日（木）に2019プロ野球ドラフト会議が行われ、本学硬式野球部から大関友久投手（体育学科4年）と佐藤優悟外野手（体育学科4年）の2名が指名されました。

指名後、江尻雅彦部長、森本吉謙監督と記者会見が行われ、今後の意気込みやこれまで支えてもらった皆様への感謝の気持ちを語りました。



大関友久投手（体育学科4年）

福岡ソフトバンクホークス育成ドラフト2位



プロ野球選手になるということが、小さいころからの夢であり、こうして指名して頂けたことはとてもうれしいです。

今後は試合に勝てる投手になり、チームに貢献できるように努力します。

佐藤優悟外野手（体育学科4年）

オリックス・バッファローズ育成ドラフト7位



吉田正尚選手のようにスイングも豪快で、ホームランでファンの方を魅了できるような選手になりたいです。

また、今まで支えて下さった皆さんに恩返しができるよう頑張りたいと思います。

女子バスケットボール部：リーグ戦初優勝 3年連続17回目インカレ出場決定！

第20回東北大学バスケットボールリーグ兼 男子71回・女子66回東北大学バスケットボール選手権大会が、8月30日（金）～9月8日（日）（一次リーグ）、10月18日（金）～20日（日）（二次リーグ）に行われ、女子バスケットボール部創部以来となるリーグ戦初優勝を果たしました。（3年連続17回目の全国大会出場権を獲得）

首位で一次リーグを通過しましたが、他大学との勝ち点に差がなかったため、二次リーグに向けて、約一ヶ月間を気を引きしめて練習に励みました。

二次リーグでは苦しい場面もありましたが、コートでプレイしている選手だけではなく、控え選手も一体となり、チーム全員で勝利を勝ち取ることができました。

今後は、12月に行われる全日本大学バスケットボール選手権大会に向けて、更にレベルアップができるように練習に励みます。応援よろしくお願ひします。



記念写真

○一次リーグ

仙台大学 ○94-60 富士大学
 ×92-105 山形大学
 ○103-69 岩手大学
 ○97-78 福島大学
 ○88-73 東北学院大学

○二次リーグ

仙台大学 ○70-68 福島大学
 ○81-78 山形大学
 ○96-60 東北学院大学

○個人賞

最優秀選手賞 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）
 優秀選手賞 工藤明日香（体育学科 4年）
 千葉沙希（体育学科 3年）
 得点王 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）
 リバウンド王 柴田紅葉（健康福祉学科 4年）

<報告：女子バスケットボール部>

健康福祉学科：介護ロボットセミナーを開催しました

10月4日（金）仙台大学LC棟において、明成高校介護福祉科に在籍している42名を対象に介護ロボット体験セミナーを開催しました。

介護現場等で導入されている最新の介護ロボットに触れることで、介護や支援の在り方について考える機会とすることを目的に、仙台大学が明成高校と連携して取り組みました。

移動支援型ロボットではHALやマッスルスーツを着けて重い荷物を持ち上げる体験、コミュニケーション型ロボットではPALROを用いたレクリエーションやOri Himeを通じたコミュニケーション、赤ちゃんや動物モデルのロボットと触れ合うことによるコミュニケーションの体験をしました。また、認知症を持つ人の困りごとについてVR体験をし、本学学生と明成高校生と触れ合いながら、楽しく学ぶことができていました。

介護の魅力や介護に関する最新の情報を広く発信する大学として、今後も取り組んでいきます。

<報告：健康福祉学科>



セミナーの様子

中山晴雄先生による頭部外傷セミナーを開催

10月15日（火）17：00から本学LC棟で今年も東邦大学大橋病院脳神経外科から、国内スポーツ頭部外傷研究の第一人者である中山晴雄先生にお越しいただき、頭部外傷セミナーを開催いたしました。

命に関わる頭部外傷から選手の安全を守るために、

- ①頭部外傷後は、脳内の血流の低下が起こる事から、脳活動に変化が生じ、様々な症状を引き起こすことを理解する。
- ②受傷後24-48時間は、他の怪我と同様に、安静にすることが望ましく、しかしその後は症状に応じた活動をしていくことが、回復に良い影響を及ぼす。
- ③神経細胞の回復には睡眠が重要であるため、眠れるように支援する事は大切である。
- ④女性と男性、子供と成人では脳神経の太さが違い、女性と子供の方がより影響を受けやすく、また回復にも時間がかかるということを理解する。
- ⑤選手がチーム内で孤立しないよう、メンタルケアや状況に配慮することが大切である。
- ⑥受傷後の対処について、各教育機関や競技団体でのルール作りをしていくことが大切である。特に教育機関では、競技復帰の前に、就学復帰を支援する体制を築いていくことが必要である。
- ⑦我々スタッフは、各選手が脳震盪を起こした原因を究明・情報共有し、各選手に合わせた対策を実施し、再発の予防を目指すべきである。
- ⑧我々スタッフは、選手にとって一番良い判断を支援できるよう、常に情報収集し、それらをアップデートしていくべきである。
- ⑨脳震盪を複数回受ける事による将来的な問題は、まだ明らかになってはいない。しかしながら、脳震盪も他の怪我と同様に、繰り返さないことが非常に重要である。一度大丈夫だったからといって、次も大丈夫とは限らないということ、選手も我々スタッフも理解するべきである。

以上の周囲のスタッフが知っておくべき9つについてお話をさせていただきました。

今回は、本学教職員やアスレティックトレーナー部学生ら25名が参加し、非常に充実した時間を過ごすことができました。

UNIVAS加盟大学として、今後本学での安全対策にも活かしていきたいと思えます。

中山先生には、台風19号の影響の中お越しいただき、一同深く感謝いたします。

<報告：アスレティックトレーナールーム>



記念写真



受講生の様子



セミナーの様子

令和元年度 ハワイ大学アスレティックトレーナー研修 アドバンスコース（通算29回目）の実施報告

9月2日～9月10日の日程で、ハワイ大学アスレティックトレーナー研修アドバンスコースを実施しました。参加学生は、男子1名、女子4名の計5名でした。引率には、朴澤泰治理事長・学事顧問、末永精悦教授、山口貴久准教授、佐藤美保広報室長、鈴木のぞみ助手の5人が携わりました。天候に恵まれ、すべての研修を予定通りに受講することができました。ただし、最終日には台風15号の影響を受け、帰国する飛行機の出発が予定よりも1時間半ほど遅れるという経験をしました。では、研修内容について報告いたします。

オープニングセレモニー

9月3日10時30分からハワイ大学マノア校キャンパス内にあるKRSという事務棟の会議室で行われました。入場早々、黒を基調とした素敵な首飾りをはじめとする記念品を贈呈されるなど温かく迎え入れてもらいました。スタッフのリーダーである金岡氏から研修日程の確認と要点、心構えなどが伝えられました。日本語ではなくすべて英語での説明でした。ハワイでの研修が始まったのだなあ実感いたしました。緊張しながらも学生の表情は意欲で輝いていました。ビギナーズコース経験者はさすがに違います。



献体解剖

9月3日14時からハワイ大学メディカルスクールで献体解剖に臨みました。メディカルスクールはハワイ大学マノア校キャンパスから車で25分くらいのところにあります。死後に医学の進歩と健康の増進に寄与したいという意思を示した方たちのご遺体を解剖するとの説明を受けました。その高潔な志に感服しました。写真や図表によってしか確認できない筋肉の構造や骨格の働きについてまさに実物で学習できたわけです。同行して下さった田村先生からも懇切な解説を日本語でしていただき、5人は学びを深めていました。

アメリカンフットボール早朝練習

9月4日の早朝5時30分からアメリカンフットボール部の練習を見学しました。日中の暑さを避け、効率的に成果を上げるためにこの時間に練習するとのことでした。金岡氏の指導を受けながらアスレティックトレーナーの在り方について考えを深めることができましたようです。100人を超える部員が在籍しているので、テーピングにするにしても時間との勝負であることを理解できたという感想を学生から聞くことができました。

英会話

9月4日・5日の両日8時30分から2時間にわたる英会話教室に参加しました。講師はDon Pomes先生でした。Don先生のEnglish is easy!!!論のもと、学生は楽しく伸びやかに英語に触れることができましたようです。初日は主に自己紹介を、2日目はATにとって必要な評価の仕方を英語で楽しく学びました。中学・高校時代から発音やイントネーションをもっと勉強すべきだったという学生の感想が印象的でした。

スパインボーディング

9月4日・5日の両日10時30分から2時間にわたり、アメリカンフットボール中の負傷を想定し、選手の装具を外し担架で搬送するまでの一連の流れを学びました。日本においても同様の学習はしています。しかし、英語を使って指示を出したり協力を仰いだりすることが難しかったようで、何をすればいいのかわかるがそれを伝えられないというもどかしさを初日に味わったようでした。2日目には気分を転換できたようで、同じクラスで学んでいた立命館大学の学生との3本勝負に3対0で勝利を収めることができました。



マッキンリー高校アスレティックトレーナー

9月4日の14時30分から金岡氏が勤めているマッキンリー高校で、ATの実際の仕事について学びました。男子バスケットボール部のトレーニング指導の見学を通して、日米のATの在り方の違いを考えたり自分が実際にATになった時のイメージ作りをしたりすることができたようです。

女子バレーボール観戦

9月6日の夕方、女子バレーボール部の試合を観戦しました。大学内に観客席と売店を完備したホールがあることに驚きました。ゆったりと観戦することができるのです。観客を楽しませるためのイベントも用意されていました。男子バレーボール部員も応援に駆け付けるなど大学としての一体感の高さに感心しました。

アメリカンフットボール観戦

9月7日18時試合開始のアメリカンフットボールの試合を観戦しました。対戦相手はオレゴン州立大学で、会場は観客が数万人入るアロハスタジアムでした。入場料や飲食物持ち込み禁止などを考えると、ほぼプロと言える規模の試合でした。学生は、試合内容はもちろんのこと要所でのトレーナーの動きにも注意を向けていました。手に汗握る熱戦で最終的には僅差でハワイ大学が勝利しました。地元の応援の威力は誠にすばらしいものです。

ワークショップ エビデンスに基づく評価

9月5日14時30分から90分間の指導を受けました。評価（スペシャルテスト）の信頼性や各テストの優位性について学ぶことができたようです。「エビデンス」の重要性を再認識できたとの感想が学生から寄せられています。

トピック 脳震盪への対処

9月6日10時から約2時間の講義を受けました。ふだん大学で使っている脳震盪の評価ツールscat3とは違うツールを用いての評価方法を体験したようです。ここでも英語による説明や表現には苦労したようですが、途中でゲーム形式の問答もあり、耳がだいぶ英語の慣れてきたことを感じさせました。

クロージングセレモニー

9月6日12時から正規日程の最終となるクロージングセレモニーが、EDWIN S.N. WONG LOUNGEで行われました。ハワイ大学マノア校教育学部学部長Dr. Nathan Murataをはじめとするハワイ大学関係者の皆様、共に学んだ立命館大生の皆さんが参列する中で、和やかに進行了ました。一人ひとり思い出を英語で数分述べた後、Dr. Nathan Murataから修了証が手渡されました。会の締め括りとして朴澤泰治理事長・学事顧問が挨拶なさいました。その後、会食となり、参列者一同、おいしい料理に舌鼓を打ちながら、時間の許す限り交流を深めました。

充実した8日間をハワイで過ごすことができました。入念な事前準備、現地での関係者の皆様の心配り、そして5人の参加者のやる気と出会いを大切にする姿勢がその要因です。現地関係者の中でも陰に陽に懇切に対応くださったのが村上泰司さんでした。村上さんは仙台大学卒業後渡米し、2018年7月からハワイ大学大学院のプログラムを受講し2年目を迎えています。2020年5月の卒業予定で、現在、ハワイ大学や近隣の高校で実習に励んでいるとのこと。彼の言動一つ一つが参加者5人にとって大きな指針になったようです。

<報告：末永精悦教授>



2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会開催

11月2日（土）「2019マイナビベガルタ仙台レディース・スポンサー報告会」が今シーズン最終戦終了後、ユアスタで開催され、朴澤理事長兼学事顧問と中村明成高校校長が参加しました。学校法人朴沢学園が早稲田大学スポーツ科学部卒業生である同チームの奥川千沙選手の雇用主になっていることから、スポンサー企業として招かれました。

奥川選手は、ディフェンスの要としてチームの重責を担っておりますが、今シーズンは途中で負傷し、残念ながら不本意なシーズンとなってしまいました。

現在は、負傷個所の手術も終了し、併せて古傷についても加療して来シーズンに備えているところであり、仙台大学明仙フィールドで敷設している明成高校生向けATルームでリハビリの傍ら、仙台大学職員としてスポーツマネジメント分野の業務に従事する毎日となっております。

<報告：朴澤理事長・学事顧問>



写真左から朴澤理事長・学事顧問、西川社長、奥川千沙選手

<高大連携>ラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が明成高校で講演会を開催

10月24日（木）明成高校でラグビーW杯 アメリカ代表リエゾンオフィサーの金岡友樹氏が講演会を開催しました。金岡氏は、ハワイマッキンリー高校でアスレティック・ヘルスケア・トレーナーとして勤務するかたわら、本学の「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ・Ⅱ」の講義を行っています。

講演会では「私とラグビーとアスレティックトレーニング」と題し、ラグビーに関わってきたこれまでの人生を振り返り、ご自身の夢を叶えることができた一番の理由は「日本を離れ、海外留学から様々な体験と出会いがあったことだ」と生徒達に熱く語っていただきました。



講演中の金岡友樹氏

河北新報社主催「防災ワークショップ」が開催されました

11月1日（金）、河北新報社主催の「防災ワークショップ」が本学LC棟を会場に開催され、東日本大震災の記憶がまだ冷めぬうちに、被災した際の対応の在り方、防災・減災への課題について住民同士が語り合い、これからの減災に活かそうというもので、宮城県内の大学生や地元住民が参加して行われております。

今回は本学学生7名と柴田町内の区長3名が参加し、東北大学災害科学国際研究所の講師及び河北新報社の防災・教育室の方がコーディネーターを務めながら、経験談や課題を出し合いました。

話し合いの中では、先月の宮城県地方に最接近した台風19号による豪雨の避難の事例も含め、たくさんの意見が活発に飛び交いました。ポイントとしてはやはり備えが最も重要であることが再確認されました。今回の台風もそうであったが、数年前の西日本豪雨の際も決して雨量が多いところが甚大な被災地ではないこと、即ち、常に雨量の多い地域（高知など）はそれなりに備えをしており、逆にそうでない地域（広島・岡山等）が甚大な被災地となったこと等が例示された。また、興味深いことは、町内の区長さんたちから、仙台大学の若い学生が近くに住んでいるということだけで、高齢者にとっては大きな安心になっているとの話がだされた。多くの若い本学学生が町内に居住していること、それだけの意義は想像以上にありそうだと認識させられた会となりました。

<報告：学生支援室>



「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました



ハワイ州のアスレティックトレーナーについて話している金岡友樹氏



全体の様子

10月29日（火）に「仙台大学スポーツ懇話会～アスレティックトレーナーを高等学校現場へ普及させるには～」を開催しました。

本会は、本学遠隔授業「NATAアスレティックトレーナーの実際Ⅰ・Ⅱ」の講師であり、ハワイ州立マッキンリー高等学校でヘッドアスレティックトレーナーとして活躍されている金岡友樹さんが、ラグビーワールドカップのアメリカ代表チームリエゾンオフィサーとして来日されている機会を利用して、高等学校へアスレティックトレーナーを普及させる方法を検討するために、学内外から広く意見を求める目的で企画されました。金岡氏の他にも、株式会社エフエム仙台専務取締役でスポーツコミッションセンダイアドバイザーの児玉聡氏、仙台市スポーツ振興事業団専務理事の清水義明氏、宮城柴田高等学校長の土生善弘氏、明成高等学校長の中村勝彦氏に学外メンバーとして参加していただきました。

金岡氏の講義では、ハワイ州の公立高校にアスレティックトレーナーの配置義務が条例で定められた経緯から、現在の勤務体系や予算に至るまで、ハワイ州のアスレティックトレーナーについて幅広く話していただきました。その後、本学が実施している高校へのアスレティックトレーナー派遣モデルの紹介として、高橋陽介准教授と白坂広子助手が、それぞれ明成高等学校で行っている活動内容について報告しました。

これらの発表を受け、懇話会メンバーからは「是非日本でも取り入れるべきだが、そのためには人材と財源の確保が一番の課題であろう」ことが示されました。また「高校部活動にも必要だと思うが、むしろ育成年代である小・中学校へ普及させることの方が重要ではないか」という意見もいただきました。

本学では今回の懇話会を皮切りに、さらに議論を重ね、アスレティックトレーナーの職域拡大について画策していきます。

<報告：山口貴久准教授>

第43回新日美展 ホルベイン工業賞受賞 ～ UN DIA DE NOVIEMBRE (11月のある日) ～

この度、予算管理室の只野健一室長が第43回新日美展（主催：新日本美術協会、後援：文化庁・東京都）に『UN DIA DE NOVIEMBRE (11月のある日)』という絵画を出展し、栄えあるホルベイン工業賞を受賞されました。

9月27日～10月5日まで東京都美術館で展示された後、本学LC棟1階に寄贈いただきました。ホルベイン工業（株）は大阪に本社がある絵具など絵画材料の製造販売を行う大手企業で、新日本美術協会を長年バックアップしており、その画材メーカーから賞を頂くのは大変名誉なことです。

只野室長からは「rain」（第五体育館2階に展示）、「un dia despues そのあくる日」（第5体育館2階会議室）、「組曲」（LC棟1階）に続き4点目の寄贈となりました。

作品名である『UN DIA DE NOVIEMBRE (11月のある日)』とは、世界的に有名なクラシックギタリスト、レオ・ブローウエルによる同名の曲があり、只野室長ご自身もその曲を演奏なさるそうです。作品はF80号サイズと大きなもので、完成にいたるまで実に1年以上かかったとのことでした。

受賞に際し只野室長は「たいへん嬉しく思います。」とおっしゃっています。

黄色とオレンジのイチヨウの葉をモチーフに樹木の影をブルーで表現した大変ユニークな作品は、LC棟1階を訪れる方々を明るく迎えてくれます。



『UN DIA DE NOVIEMBRE (11月のある日)』



第43回新日美展

芝生（ハイブリッド芝）の視点からラグビーワールドカップを楽しむーその2

日本代表は前号（9月30日記）から更に勝利を重ね4戦全勝で初めてベスト8に進出して、歴史的な快挙として称賛の声が上がりました。優勝した南アフリカに準決勝で負けましたが、その戦いぶりは見事で、日本中が盛り上がり今回のラグビーW杯は大成功と世界中から認められました。

準々決勝が行なわれた大分スポーツ公園総合競技場と東京スタジアム、更に準決勝が行われた横浜国際総合競技場はそれぞれの会場では二日連続で、2試合が行なわれました。スクラムの回数など試合の内容によって天然芝生の損傷に違いが有りますが、ラグビー競技の特性である芝生の剥離は各チームの試合に懸ける意気込みに比例して違いがありました。またその損傷をカバー出来る「ハイブリッド芝」の機能により素晴らしい天然芝生のグラウンドを世界に提供できたと感じました。一方、各会場においてはグラウンドごとの特色も見えてきました。前回紹介した種類の「ハイブリッド芝」の違いや整備の違いによって剥離の状態も違っていました。又同じ構造の『ハイブリッド芝』でも天然芝生が寒地型か暖地型かによっても違いがあるようです。

専門的な話で恐縮ですが、直立系の匍匐茎を持たない寒地型洋芝はメンテナンスが比較的容易で、地面すれすれを伸びていく匍匐茎がある暖地型洋芝はメンテナンスに工夫が必要で、それによって剥離の生じ方が違うらしい。その事を今回準々決勝が行われた東京スタジアムを翌日視察して、現地でテクニックを教示して頂き貴重な研修が出来ました。この東京スタジアムは大きな剥離は無く、小さな剥離でも人工芝生が残り、表層を守っていました。（11月3日記）

<東京スタジアムの2試合連続終了翌日の状態>



写真1. 西側遠景
大きな剥離は無い



写真2. 近景
小さな剥離部分



写真3. 接写
先端の色の濃い人工芝

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.19

担当：白坂 広子 助手

○前期まとめ

令和元年の前期が終了しました。川平AT・S&Cの前期の主な活動とその結果をまとめたいと思います。

- ・4月はFESを開催し、指定研究部活動に所属する新1年生全員のフィジカルチェックを行いました。
- ・5月はFESのフィードバックを行う中、男子サッカー部の高校総体予選と陸上競技部の高校総体県大会が行われ、男子サッカー部は県大会出場、陸上競技部は800mと1500mで東北大会出場を決めました。
- ・6月は女子バスケ、女子サッカー、男子バレーボール部の高校総体県大会が行われ、女子バスケ部は優勝しインターハイへ進出、男子バレーボール部はベスト8入りを果たし、女子サッカー部は4位となりました。
- ・7月は各部活動に熱中症講座を開催、明成フェスティバルでの対応を行いました。
- ・8月は遠征や合宿などへ出発する各部活動へのフィジカル準備や対応、そして明仙フィールドで開催される各種の大会のサポートを行いました。そして女子バスケ部はインターハイに出場、2回戦敗退という結果ではありましたがすべてを出し尽くした素晴らしい試合となりました。
- ・9月は男女サッカー部の県選手権が行われ、男子サッカーは現在も勝ち進んでいる状況、そして女子サッカーは4位という結果でした。そして健康スポーツコースを対象に体育授業も始まっています。

テーマは「運動学」、「コンディショニング」、「レジスタンストレーニング」など多岐に渡っています。令和元年前期は新1年生の春の怪我を減少させ、3年生の集大成となる高校総体で結果を出すためのサポートをすることを大きな目標としてきました。毎年同じ目標を持っているのですが、今年は前年度までの傾向と反省を最も反映させた活動にしました。FESはその大きなステップとなり、実際に新1年生に発生する春の怪我は減少につながりました。しかしながら、3年生でメインとなる生徒の怪我が目立ち、高校総体に出場できなかった生徒がいました。これには力不足を感じ、また新たな反省材料とし来年に生かしていくしかありません。ATとS&Cがフルタイムで関わっている高校は全国的にみてもありません。もっと結果を出さなくては、と心意気を新たに後期も活動を続けていきたいと思っています。